

Ⅳ 子ども読書推進のための様々な取組

実践① 西原幼稚園読み聞かせサークル クレリア

1 はじめに

西原幼稚園は高隈山を北に臨み、海軍航空の歴史ある鹿屋の地に昭和47年に開園して以来、45年に渡り、多くの子どもたちが学び育ってきた歴史ある幼稚園である。保護者も、園での活動にとっても積極的に参加し、和やかな雰囲気がある。17年前に、保護者の間で子どもへの読み聞かせの重要性が話題となり、「幼稚園の子どもたちにたくさんの絵本に出会ってもらい、興味を持ち、楽しさや素晴らしさを伝えることができないか。」という思いがきっかけとなり、読み聞かせに興味を持っていた保護者が集まり、2000年9月に読み聞かせサークルを立ち上げた。

発足以来、絵本の読み聞かせに加え、わらべ歌や指遊びにも取り組み、おはなしの小道具や大型かみしばいなどの制作活動も行っている。現在は25人のメンバーが集まり、子どもたちと楽しい時間を共有できることもやりがいとなり、活動を行っている。

2 活動の実際

(1) 各教室での読み聞かせ活動

月1回の読み聞かせをクラス単位で教室に入り15分間の読み聞かせを行っている。各学年や季節に合った選書をそれぞれに行い、絵本やかみしばいに加え、わらべうたや指遊びを取り込み、子どもたちと楽しめるようにしている。読み聞かせが終わると、読んだ絵本についてや子どもたちの様子などについて話し合いを行うことによって、メンバー間の意見交換や学習の機会にもつながっている。



(2) その他の読み聞かせ活動

子どもたちに季節に合った読み聞かせを届けたいという思いから、教室以外の場所において違った雰囲気でも楽しんでもらえるように読み聞かせを行っている。夏休み期間中に「夏のおはなし会」、秋には園庭の木陰での「青空おはなし会」、卒園前には年長児への「卒園おはなし会」を各回30分のプログラムで行っている。



(3) 学習会や製作活動の実施

年間の活動計画の中で学習会を設けるようにしており、メンバー間でのブックトーク、わらべ歌や指遊びの練習、おはなしの小道具や大型かみしばいなどの製作を行っている。製作したおはなしの小道具の中には、卒園おはなし会での子どもへのプレゼントもあり、子どもたちがおはなしを楽しむつながりになっているのではないかと考える。

〈製作例①〉「くまさんのおでかけ」



一本道をテクテク くまがおでかけ 「いってまいります」
一本道をテクテク や、水たまり 「泳いでわたろう」
一本道をテクテク や、石ころ 「ヨイショとこえよう」
一本道をテクテク や、山ぶどう 「こりやうまそう パクン」
一本道をテクテク や、行き止まり 「まわれみぎ！」
※逆順にて繰り返す
一本道をテクテク くまがおかえり 「ただいま！」

(「おはなしのろうそく 1」東京子ども図書館 より)

〈製作例②〉「くちばし あひるひよこ」



「くちばし」 あひるひよこ
カッタラッタ カッタッタ カッタラッタ カッタッタ
きょうはくちばしで カスタネットごっこをしてあそびました
「カッタラッタ」ばかりしてたものだから
ごはんを食べるとき 「いっタララッきまーす」といっちゃった
(「のはらうたⅢ」工藤直子作 童話屋 より)

読み聞かせにわらべ歌や小道具、指遊びを取り込むことによって、子どもたちが覚えて口ずさんだりしてくれていると先生や保護者からの話を聞きとても嬉しく思い、おはなしと同様に子どもたちの心や記憶に残るものを届けたいと考えている。



(4) その他

幼稚園側の協力をもらい、読み聞かせに関わるイベントに子どもたちが参加できるようにしている。平成28年度で3回目となる講談社「おはなしキャラバン隊」の来園や、平成27年度には園にサトシン氏を招いて絵本ライブを行うことができ、子どもたちが絵本に興味を持つ機会につながる貴重な時間を作ることができた。



3 おわりに

私たちは絵本を通じて子どもたちと関わり合うことができ、とても素敵な時間を過ごしている。

「家で子どもに本を読んであげるぐらいしかしたことがないけど…」と集まった、読み聞かせを経験したことがない者がほとんどであるが、集まって活動していく中で、子どもたちのキラキラとした目や笑顔にうれしさを感じたり、自分たちが絵本の魅力に取り込まれたりしながら活動してきた。絵本がきっかけで仲間どうしのつながりが深まることも嬉しいことであり、絵本や仲間との出会いにも感謝している。平成28年度に優良読書グループの表彰を受賞することができたのも、発足以来懸命に活動をして来られた先輩メンバーの方々や、長年にわたりそれらの活動が引き継がれてきたことが、今の私たちの活動の礎となっており深く感謝している。

これからも子どもたちがたくさんのおはなしと出会い心豊かになってくれること願い、私たちも素敵な時間を子どもたちや仲間と共有できることを嬉しく思い活動していきたいと考える。